

2026年5月8日

日本不安症学会

ヴィアトリス製薬合同会社

日本不安症学会とヴィアトリス製薬 全般不安症（GAD）の疾患啓発に関する連携協定を締結

第一弾として、5月11日（月）より開始する
疾患啓発キャンペーン「その心配性、“GAD”かも。」を日本不安症学会が監修

日本不安症学会（所在地：千葉県千葉市中央区、理事長：清水栄司）とヴィアトリス製薬合同会社（所在地：東京都港区、社長：ソナ・キム）は、全般不安症（GAD：Generalized Anxiety Disorder、以下GAD）に関する科学的エビデンスに基づく正確で生活者に寄り添った情報を社会へ広く届けることを目的に、疾患啓発に関する連携協定を締結しました。協定締結の第一弾として、5月11日（月）よりヴィアトリス製薬が展開するGADの疾患啓発キャンペーン、「その心配性、“GAD”かも。」の監修を日本不安症学会が務めました。



協定書を手にする、ヴィアトリス製薬 社長キム（左）と日本不安症学会 理事長 清水（右）

GAD は、複数の出来事や活動に対して、慢性的にコントロールできない過剰な「不安」や「心配」を中心症状とする疾患です。不安や心配に加えて、十分な睡眠がとれなくなったり、筋肉が緊張して凝ったりなどの身体症状や、落ち着かない、疲れやすい、イライラする、集中できなくなることで、生活や仕事において深刻な機能障害を起こすことがあります¹。世界保健機関（WHO）の報告によると、日本における GAD の生涯有病率は 2.6%と報告されており²、自己記入式質問票である GAD-7 を使用した最近の研究では、疑いを含む GAD（GAD-7 スコアが 10 点以上）の有病率が 7.6%であると報告されています³。このことから多くの方が GAD の症状を抱えながら生活していることが推察されています。

しかし、日本において GAD の認知度は低く、「自分が心配性なだけ」「性格の問題」と捉え、専門家へ相談する方は決して多くありませんでした。また、これまで日本では GAD に対して承認された薬剤がなかったため、症状に悩みながらも適切な診断・治療を受けられていない患者さんも存在しました。今後は新しい治療選択肢の登場に伴い、ご自身の症状を性格ととらえて我慢してきた方、症状に気づきながらも受診をためらっていた方における GAD の情報へのニーズが高まることが予想されます。

こうした背景から、GAD に関する正確な理解と早期受診・適切な治療を促進する情報発信は重要であり、両者は今回の協定締結を通じて、社会全体における GAD の認知向上と患者さん、周囲の方への支援の強化を目指します。

■ 連携プログラムの概要

本協定における主な取り組みは以下のとおりです。

1. 市民向け GAD 啓発キャンペーン動画の共同制作

一般生活者の方々が GAD を正しく理解し、早期受診や適切なケアにつながるよう、正確かつ分かりやすいコンテンツを制作します。

2. 疾患教育動画の普及活動

GAD に関する専門的知見を分かりやすく解説した教育動画を提供し、医療従事者や一般生活者の理解促進を図ります。

これらの活動は、日本不安症学会による医学的知見に基づく監修のもと、ヴィアトリス製薬が技術的な支援や制作リソースを提供し、協力して実施いたします。

■本協定締結を受けてのコメント

日本不安症学会 理事長 清水 栄司

「今回の連携を通じて、GAD に関する正しい理解が社会に広く浸透し、これまで『心配性だから仕方がない』『性格の問題』として見過ごされがちであった症状を抱える方々が、適切な支援や医療につながるきっかけとなることを期待しています。

GAD は、本人の努力や意思だけでは対処が難しい疾患であり、科学的根拠に基づく正確な情報と、周囲の理解が不可欠です。日本不安症学会としては、医学専門家の立場から、生活者に寄り添った分かりやすい情報発信を行い、早期受診と適切な治療につながる環境づくりに貢献してまいります。ヴィアトリス製薬との連携を通じて、信頼性の高い疾患啓発活動を継続的に推進していきたいと考えています。」

ヴィアトリス製薬合同会社 社長 ソナ・キム

「ヴィアトリスは『世界中の誰もが、人生のあらゆるステージでより健康に生きられるよう貢献します』というミッションのもと、治療薬の提供にとどまらず、疾患に対する正しい理解を社会に広げる活動にも注力してきました。

GAD は多くの患者さんがいる一方で、十分に認知されているとは言えず、適切な診断や治療につながっていないケースも少なくありません。今回、日本不安症学会との協定を通じて、医学的エビデンスに基づく信頼性の高い情報を生活者の皆さまに届けられることを大変意義深く感じています。本連携を通じて、日本における GAD の理解向上と、当事者およびその周囲の方々への支援強化に貢献してまいります。」

参考文献

1. 高橋 三郎 ほか監訳; “II 診断基準とコード 5 不安症群/全般不安症” :DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院 p242-246
2. Stein DJ, Kazdin AE, Ruscio AM, et al. Perceived helpfulness of treatment for generalized anxiety disorder: a World Mental Health Surveys report. BMC Psychiatry. 2021;21(1):392.
3. Matsuyama S, Otsubo T, Nomoto K, Higa S, Takashio O. Prevalence of Generalized Anxiety Disorder in Japan: A General Population Survey. Neuropsychiatr Dis Treat. 2024 Jun 26;20:1355-1366.